業施設であるゲイバーの割合は低かった。

7. HIV 感染者において対面型の商業施設の利用者の割合が低いことは、本研究班が主導してきた予防啓発活動が有用であることを示唆している

8. 今後は、hard to reach population における感染拡大抑止策も平行して検討する必要がある。

9. 献血ではHIV 検査の結果返しがないことの認知度ありは 67%と低く、HIV 感染している場合には、結果返しがないことは陰性と捉えるリスクがあり、2 次伝播に繋がることが推察された。

E. 結論

CBO と連携した現在の MSM 啓発研究は重要であり、今後も拡大・継続して進める必要がある。それと同時に hard to reach population における感染拡大抑止策も平行して検討する必要がある。

HIV 検査が適切に提供されるべき時期に、医療側の認識不足のため、検査機会を逸失している。

F. 知的所有権の出願・取得状況（予定を含む）

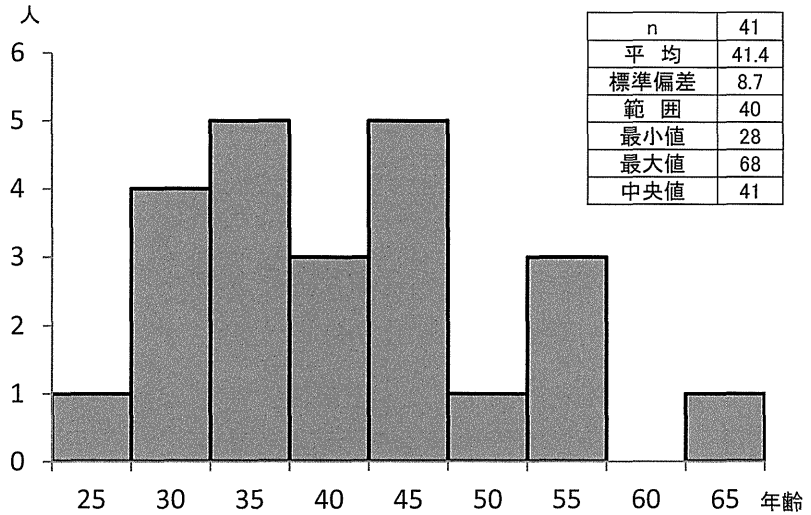
なし。

G. 発表論文等

(研究論文)

1. Ogawa S, Hachiya A, Hosaka M, Matsuda M, Ode H, Shigemi U, Okazaki R, Sadamasu K, Nagashima M, Toyokawa T, Tateyama M, Tanaka Y, Sugiura W, Yokomaku Y, Iwatani Y.：A Novel Drug-Resistant HIV-1 Circulating Recombinant Form CRF76_01B Identified by Near Full-Length Genome Analysis. AIDS Res Hum Retroviruses. 32(3):284-9, 2016.

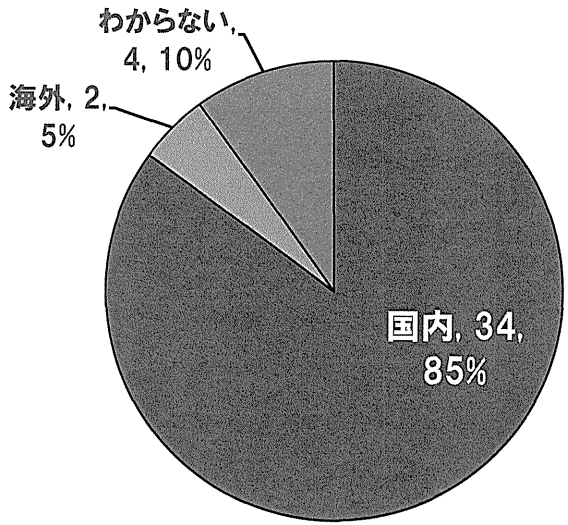
図1. 回答者の年齢分布 （回答者41名）



n	41
平 均	41.4
標準偏差	8.7
範 囲	40
最小値	28
最大値	68
中央値	41

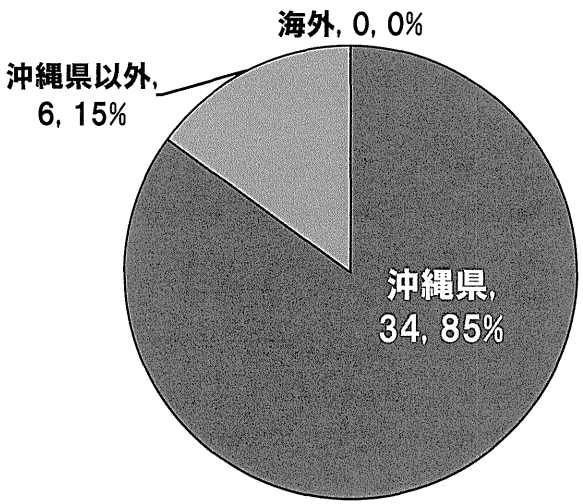
1

図2. 感染したと思われる地域 （回答者41名）



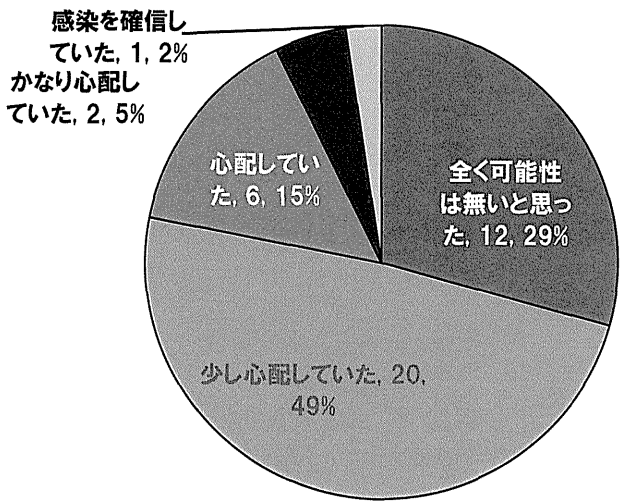
2

図3. HIVに感染が判明した時の、検査の場所 （回答者41名）



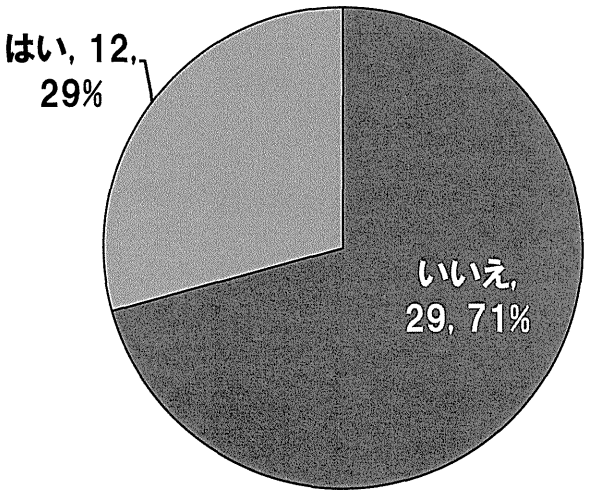
3

図4. 感染が判明する前の自分が感染する可能性について（回答者41名）



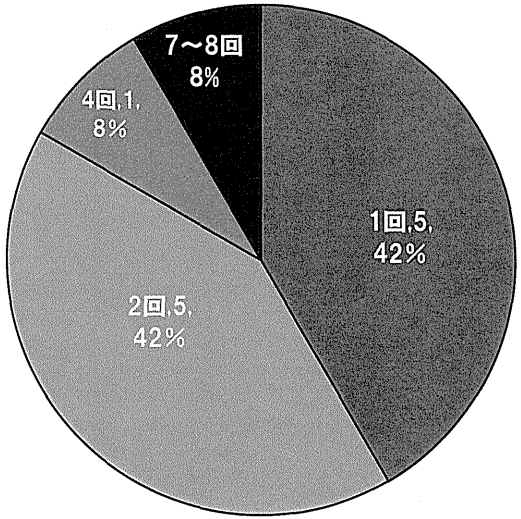
4

図5. 感染が判明する前にHIV検査を受けた事がありますか （回答者41名）



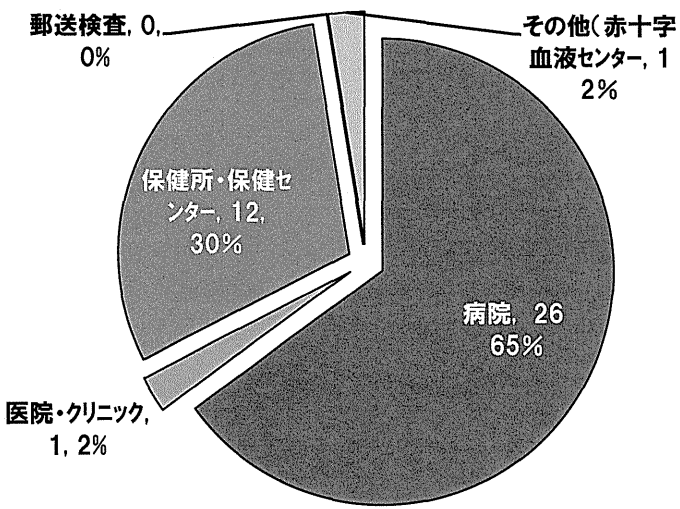
5

図6. 感染判明前のHIV検査の受検回数
（n;検査を受けたことのある12名）



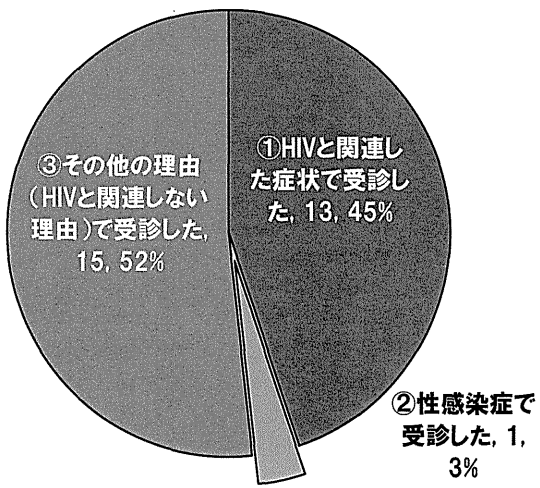
6

図7. HIVに感染が判明した時の医療施設
（回答者40名、無回答1名を除く）



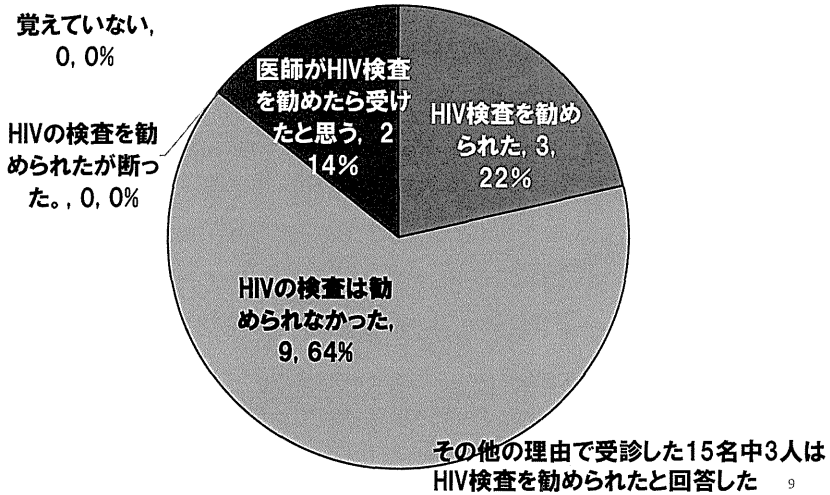
7

図8. HIV感染が判明する前に最後に医療機関に行った理由
（受診歴ありと回答した29名）



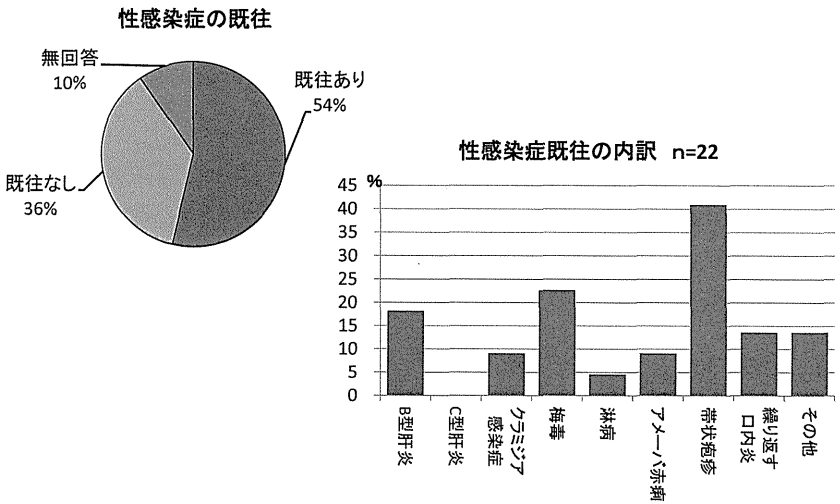
8

図9. HIV検査の受検状況
（HIVまたは性感染症関連で受診したと回答した14名）



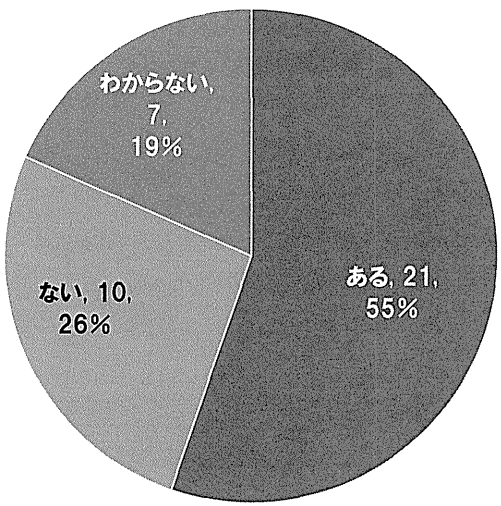
9

図10. HIV感染が判明する前の性感染症歴
（回答者37名、無回答4名）



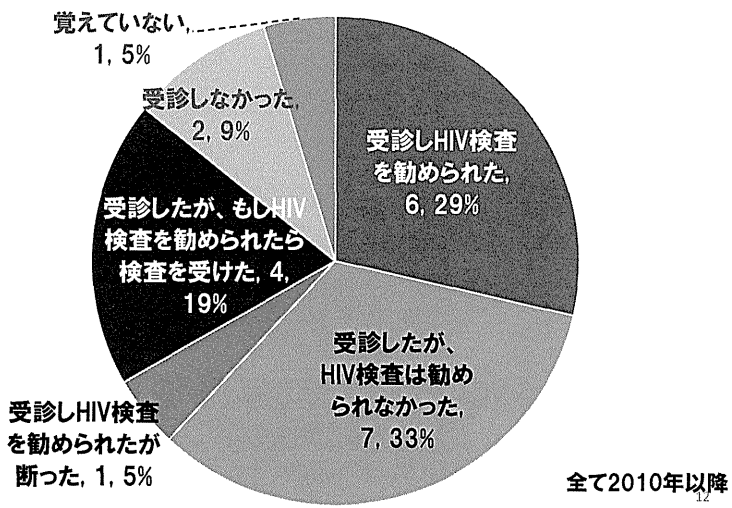
10

図11. 急性HIV感染症の記憶
（回答者38名、無回答3名を除く）



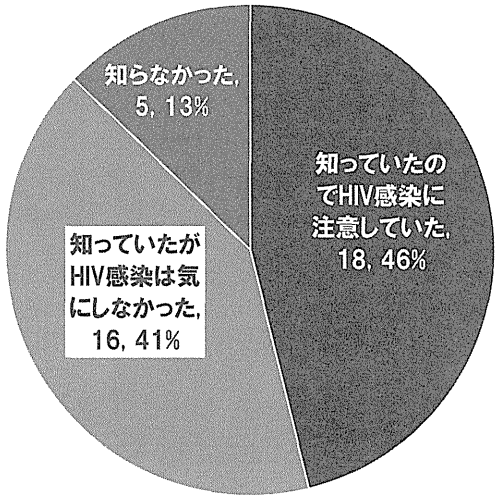
11

図12. 急性HIV感染症の症状が出た時、受診の有無（回答者21名）



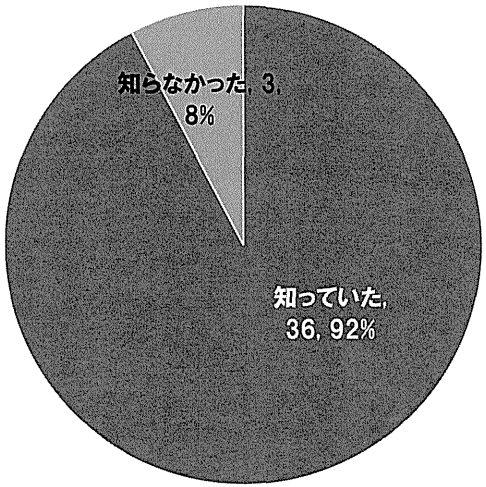
12

図13. HIV感染の予防に関する啓発情報の認知度（回答者39名、無回答を除く）



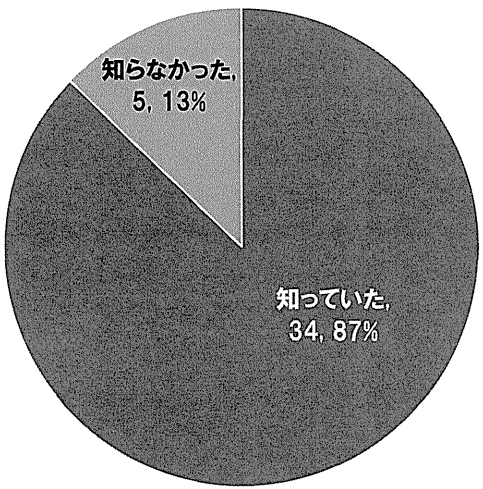
13

図14. 日本でHIV感染者が増えていることについての認知度（回答者39名、無回答除く）



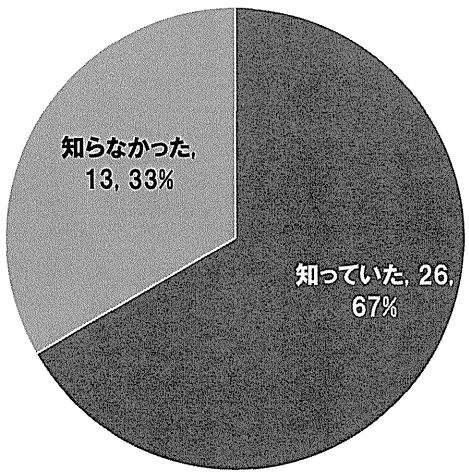
14

図15. 保健所でHIV検査が匿名で受けられることの認知度（回答者39名、無回答除く）



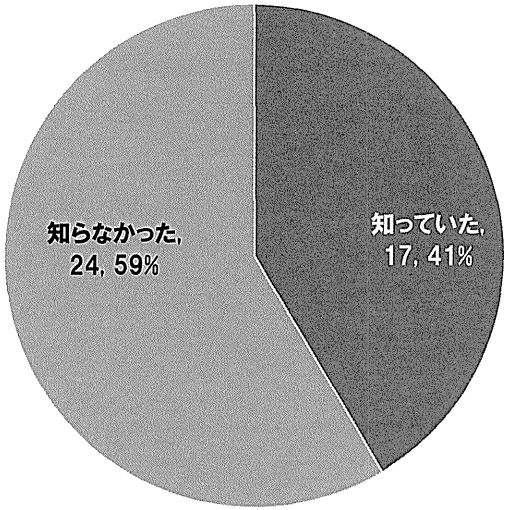
15

図16. 献血ではHIV検査の結果は教えてもらえないことの認知度（回答者39名、無回答除く）



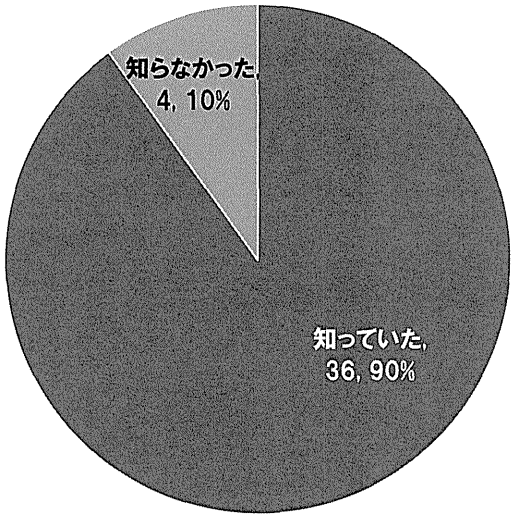
16

図17. HIVやAIDSについて相談できる機関または団体の認知度（回答者41名）



17

図18. HIV検査を受けられる機関の認知度（回答者40名、無回答を除く）



18

図19. HIV感染が分る前、男性同性間のHIV感染関連情報の入手先（回答者41名：複数回答）

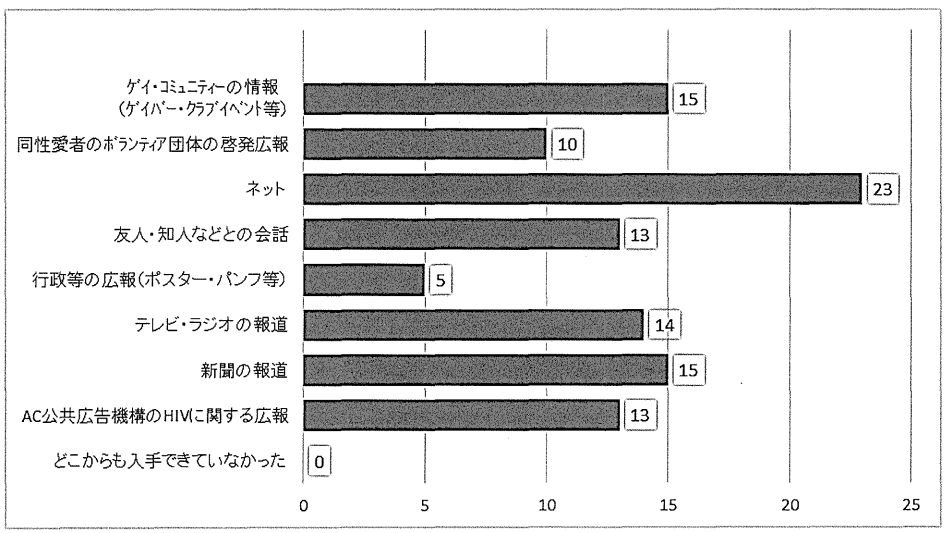
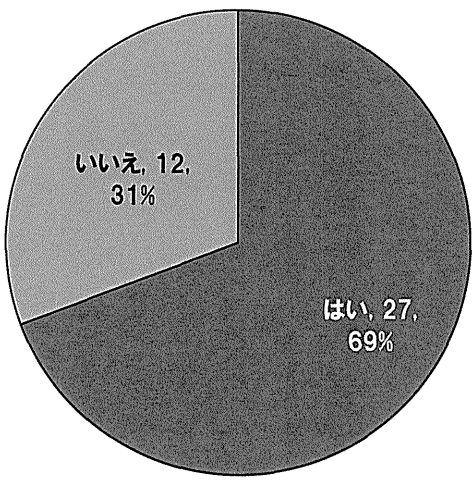
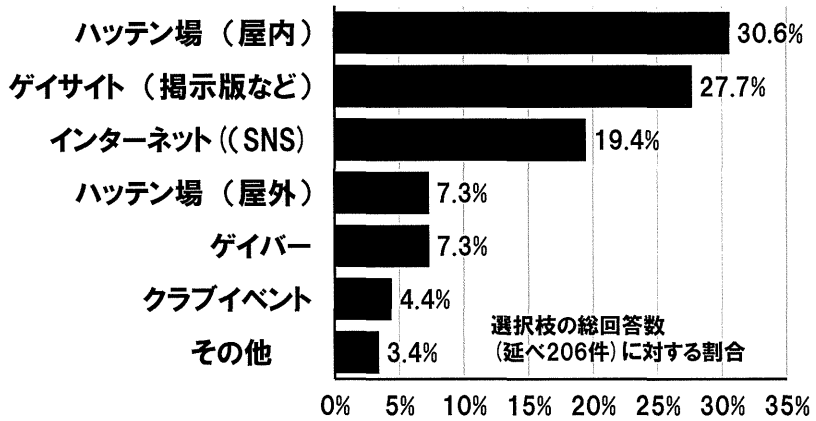


図20. 男性同性愛者の当事者によるHIV予防啓発団体（nankr沖縄、mabui,akta 等）の存在を知っていましたか？（回答者41名）



20

図21 セックスパートナーと出会うために利用していた場所



＊回答者は、利用頻度の高いもの上位3つまでを回答し、第一選択は3点、第二選択は2点、第三選択は1と重み付けした点数を各選択枝に割り当て、総合計に対する割合を算出した。

資料　アンケート調査の内容

（実際のアンケートの体裁を報告書の印刷用に改変しています）

1.　あなたの自認する性別を回答して下さい。
　　1)　男性　　2)　女性　　3)　その他　（　　）

2.　あなたの年齢について教えてください。
　　（　　）歳

3.　あなたは以下のどれにあてはまりますか？
　　1)　ゲイ　（同性愛者）
　　2)　バイセクシャル（両性愛者）
　　3)　ヘテロセクシャル（異性愛者）
　　4)　その他
　　5)　わからない
　　6)　決めたくない

4.　最終学歴はいつですか？下記からお選びください。
　　1）中学卒　2）高校卒　3）短大・専門学校　4）大学　5）　大学院

＜ＨＩＶ感染が判明する（前）のことについて＞

5.　感染が判明する（前）に、自分が感染する可能性についてどう思っていましたか？
　　1）全く可能性は無いと思った　2）少し心配していた　3）心配していた
　　4）かなり心配していた　5）感染を確信していた

6.　感染が判明する（前）にＨＩＶ検査を受けたことがありますか？
　　1）いいえ　2）はい（　　回ぐらい）
　　はいと回答された方は７も回答して下さい

7.　感染が判明する（前）にＨＩＶ検査をどこで受けましたか？（複数回答可）
　　1）病院で受けた事がある　2）　医院・クリニックで受けたことがある
　　3）保健所・保健センターで受けたことがある　4）郵送検査を受けたことがある
　　5）その他で受けたことがある（　　）

8.　感染が判明する（前）の HIV 検査は心理的に受けやすかったですか？
　　1）受けにくい　2）受けやすい　3）関心が無い

9.　ＨＩＶ感染が判明する（前）に、最後に病院や医院・クリニックに行ったのはいつですか？
　　1）ＨＩＶ感染が判明する（前）に病院に行ったことはない
　　2）ＨＩＶ感染が判明する（前）には、行ったことがある。
　　・最終受診日：西暦　（　　）年頃、あるいは　昭和・平成（　　）年頃
　　（○をつけてください）

10.　ＨＩＶ感染が判明する（前）に、最後に病院や医院・クリニックに行った理由は、次のどれですか？
　　1）（いま振り返れば）ＨＩＶと関連した症状で受診した
　　2）性感染症で受診した
　　3）その他の理由（風邪や持病、健康診断などＨＩＶと関連しない理由）で受診した

11. 【質問10】で 1) 2) と回答した方にお聞きします。
医師はＨＩＶの検査を勧めましたか？
1) ＨＩＶの検査を勧められた
2) ＨＩＶの検査は勧められなかった
3) ＨＩＶの検査を勧められたが、あなたがＨＩＶ検査は断った
4) もし医師がＨＩＶの検査を勧めたら、あなたはＨＩＶ検査を受けたと思う
5) 覚えていない

12. ＨＩＶ感染が判明する前に、以下の性感染症にかかったことがありますか？（複数回答可）
1) 性感染症にかかったことはない　2) Ｂ型肝炎　3) Ｃ型肝炎
4) クラミジア感染症　5) 梅毒　6) 淋病
7) アメーバ赤痢　8) 帯状疱疹　9) 繰り返す口内炎
10) その他　（　　）

＜ＨＩＶに感染が判明した時のことについて＞
13. ＨＩＶに感染が判明した時の、あなたの年齢を教えてください。
（　　）歳

14. ＨＩＶに感染が判明した時に、病院から告げられたあなたの健康状態は、
次のどれでしたか？
1) エイズ　2) 無症状　3) エイズではないが、なんらかの症状はあった
4) 急性ＨＩＶ感染症　5) わからない

15. ＨＩＶに感染が判明した時の、あなたのCD4陽性Ｔリンパ球数は次のどれに当てはまりますか？
1) 50個以下　2) 50個～199個　3) 200個～350個
4) 350個以上　5) 覚えていない

16. ＨＩＶに感染が判明した時の検査機関・医療機関は次のどれですか？
1) 病院　2) 医院・クリニック　3) 保健所・保健センタ
4) 郵送検査　5) その他（　　）

17. ＨＩＶに感染が判明した時の、ＨＩＶ検査が行われた地域はどこですか？
1) 沖縄県
2) 沖縄県以外　（　　県）
3) 海外　（　　国名）

18. 感染したと思われる居住地はどこですか？　※わかる範囲で宜しいです？
1) 国内　（県名　　県）
2) 海外　（国名　　）
3) わからない

19. ＨＩＶ陽性者であることを知った年度はいつごろですか？　※わかる範囲で宜しいです
西暦　（　　）年頃　あるいは　昭和　・　平成　（　　）年　頃
（○をつけてください）

20. ＨＩＶに感染したと思われる経路は以下のどれにあてはまりますか？　（複数回答可）
1) 同性間の性的接触　2) 異性間の性的接触　3) 薬物静脈注射による
4) その他（　　）
5) わからない

<急性ＨＩＶ感染症について>

21. 急性ＨＩＶ感染症について、以下のようなことは記憶にありますか？
急性ＨＩＶ感染症とは、感染の機会から 2-4 週間後に、突然の 38 度以上の発熱が 1-2 週間、首の周りのリンパ節が腫れたり、強い喉の痛みや口内炎、肝障害、白血球の減少などが特徴的です。
インフルエンザや伝染性単核増多症、マイコプラズマ症と誤診されることが多いです。

1) ある　　2) ない　　3) わからない

22. 急性ＨＩＶ感染症の症状が出た方にお尋ねします。医療機関に受診はしましたか？
1) 受診し、ＨＩＶの検査を勧められた
2) 受診したが、ＨＩＶ検査は勧められなかった
3) 受診し、ＨＩＶの検査を勧められたが、あなたがＨＩＶ検査は断った
4) 受診したが、もし医師がＨＩＶの検査を勧めたら、あなたはＨＩＶ検査を受けたと思う
5) 受診しなかった
6) 覚えていない

23. 薬物の使用経験についてお尋ねします。
ここでの薬物とはセックスドラッグ、精神高揚を目的とした薬物のことです。
アンケート結果の全ては厳重に管理され、あなたが特定されたり、不利益を被ることは一切ありません。

1) 1 年以内に使用したことがある
2) 1 年以上前に使用したことがある
3) 使用したことはない

<感染が分る前のＨＩＶに関する情報について>

24. ＨＩＶ感染の予防に関する啓発情報について、あなた個人の受け止め方は以下のどれでしょうか？
1) 知っていたのでＨＩＶ感染に注意していた
2) 知っていたがＨＩＶ感染は気にしなかった
3) 知らなかった

25. 日本でＨＩＶ感染者が増えていることについて、あなた個人には伝わっていたでしょうか？
1) 知っていた　　2) 知らなかった

26. 保健所でＨＩＶ検査が匿名で受けられることは、あなた個人に情報が伝わっていましたでしょうか？
1) 知っていた　　2) 知らなかった

27. 献血ではＨＩＶの検査の結果は教えてもらえないことは、あなた個人に情報が伝わっていましたでしょうか？
1) 知っていた　　2) 知らなかった

28. あなたは、どこでＨＩＶの検査を受けられるかについて、知っていましたか？
1) 知っていた　　2) 知らなかった

29. あなたは、ＨＩＶやエイズについて相談できる機関または団体を知っていましたか？
1) 知っていた　　2) 知らなかった

30. ＨＩＶ感染が分る前、男性同性間のＨＩＶ感染の関連情報は、どこから入手されました？
（複数回答可）
a) AC 公共広告機構のＨＩＶに関する広報
b) 新聞の報道
c) テレビ・ラジオの報道
d) 行政等の広報（ポスター・パンフレットなど）
e) 友人・知人などとの会話
f) ネットや知人などとの会話
g) 同性愛者のボランティア団体の啓発広報
h) 同性愛者のコミュニティーの情報（ゲイバー、クラブイベントなどヒトを介して）
i) どこからも入手できていなかった

31. 男性同性間に広がっている性感染症について、最もあてはまると思うものを１とし以下 2,3 と順位を付けて下さい。1-3 位までの数字を（　　）内に記してください。
(　　) a) ＨＩＶ
(　　) b) B 型肝炎
(　　) c) C 型肝炎
(　　) d) クラミジア感染症
(　　) e) 梅毒
(　　) f) アメーバ赤痢

32. セックスパートナーと出会うために利用していた場所等について、最も利用していたものを１とし、以下 2,3 と順位を付けて下さい。1-3 位までの数字を　（　　）内に記してください。
順位
(　　) a) ゲイバー
(　　) b) クラブイベント
(　　) c) ハッテン場　（屋内）
(　　) d) ハッテン場　（屋外）
(　　) e) ゲイサイト　（掲示版など）
(　　) f) インターネット　（ソーシャルネットワークサービス）
(　　) g) その他　（　　）

33. 男性同性愛者の当事者によるＨＩＶ予防啓発団体（nankr 沖縄、mabui、akta など）の存在を知っていましたか？
1) はい　　2) いいえ

以下の３つの質問はとても重要と考えております。自由記述で面倒をお掛けしますが是非、ご回答お願いします。

34. 感染する前に、どのような情報が、どのような方法で知らされれば、あなたの感染が防げたと思いますか？　ご意見をお願いいたします。

35. 感染が分った時期に、どのような情報や支援が必要でしたか？
ご意見をお願いします。

36. 今後、治療を続けていく上で、どのような情報や支援が必要とお考えですか？
ご意見をお願いします。

＜ご協力、本当にありがとうございました。必ず、皆様に、そして社会に還元したいと思います。＞

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業
男性同性間のHIV感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究

MSM及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較（1）
－ MSMにおける検査・予防行動、地域間移動に伴う性行動 －

研究分担者：金子典代(名古屋市立大学看護学部　准教授)
本間隆之(山梨県立看護大学　講師)
研究協力者：塩野徳史(名古屋市立大学看護学部)、太田貴（やろっこ)、岩橋恒太（特定非営利活動法人akta)、荒木順子（特定非営利活動法人akta/公益財団法人エイズ予防財団)、石田敏彦（ALN)、町登志雄（MASH大阪/公益財団法人エイズ予防財団)、後藤大輔（MASH大阪)、新山賢（HaaTえひめ)、牧園祐也（Love Act Fukuoka/公益財団法人エイズ予防財団)、金城健（nankr沖縄/公益財団法人エイズ予防財団)

研究要旨

本研究の目的は、東北、東京、名古屋、大阪、中四国、沖縄のゲイコミュニティ内で開催されるゲイ向けイベントに参加したMSMにおける検査・予防行動、各地域のコミュニティベースの予防介入の認知を明らかにすること、外国籍MSMとの性行為の実態、日本国内での地域間移動と移動に伴う性行動規範を明らかにすることである。地域間移動については、国内での自身の居住地以外の都市への移動経験と移動先での商業施設利用、性行動、旅行と性行動に関する規範に焦点を当てた分析を行った。重複回答を除く869名のデータについて年齢群別に分析を行った結果、25歳未満群で過去6か月のコンドーム使用、HIV検査経験が他の年齢層より低いことが示された。また過去6か月に男性と性行為経験のある581名のうち、108名（19%）に外国籍MSMとの性行為経験があり、そのうち83名（76.9%）は日本国内で性行為を行っていた。対象者のリクルート起点となった地域の居住者のみ699名を対象にし、東北、東京都、東海、大阪、中四国、沖縄の各地域別にコンドーム使用行動、検査行動、予防啓発の認知評価を年齢別に分析した結果、若い年齢層でのコンドーム使用の低さ、HIV検査の受検経験割合の低さが示唆された。

A. 研究目的

本研究の目的は、東北、東京、名古屋、大阪、中四国、沖縄のゲイコミュニティ内で開催されるゲイ向けイベント参加したMSMにおける検査・予防行動を明らかにし各地域で行っている予防介入の評価を行うこと、地域間移動に伴う性行動を明らかにすることである。地域間移動については、国内での他都市への移動経験と性行動、海外のMSMとの交流機会に焦点を当てた。

B. 研究方法

本研究班が開発したGCQアンケートシステムを用いてインターネットサイト上に本調査専用のサイトを開設した。本研究班の介入地域である東北、関東、東海、近畿、中四国、九州、沖縄県に居住するゲイ・バイセクシュアル男性を対象者としてインターネットによる横断調査を実施した。総計9イベントと協働し、各イベント固有の調査サイトを総計9件開設し実施した。対象者のリクルートでは、ゲイ向けクラブイベントのオーガナイザーと

協力し、広報資材やインターネットサイトに本調査の回答協力依頼の広告を掲載した。イベント実施前から広報を開始し、イベント開始前の調査への回答を依頼した。対象者は、調査回答終了画面をイベント入場時に受付に提示することで受ける入場料割引を本調査の謝礼とした。質問項目は基本属性、資材認知、HIV 検査受検、過去 6 か月の外国籍 MSM との性行動経験、ツーリズムに関する意識、国内での仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市、那覇市への移動/旅行経験と移動/旅行先での性行動等、総計 85 問であった。2015 年度の横断調査の実施期間は 6 月 18 日-11 月 14 日までの約 5 ヵ月間であった。

（倫理面への配慮）

本研究の研究計画については、名古屋市立大学看護学部倫理委員会より実施の承認を得て実施した。

C. 研究結果

調査期間中の総計の有効回答数は 1101 件であり、沖縄イベントでは 269 件、大阪の 2 イベントでは 174 件、中四国クラブイベント 2 件で 292 件、東北イベントでは 48 件、名古屋の 2 イベントでは 195 件、東京イベントでは 123 件の回答を得た。回答者には本研究で協働した 9 イベントのうち複数イベントに参加し、複数の調査に回答しているものがいること、また本研究班と NGO が予防啓発を行っている地点以外の回答者も含まれていた（図 1）。ツーリズムが盛んな沖縄地域では回答者の過半数が近畿地方や関東地域居住の沖縄以外の居住者であった。

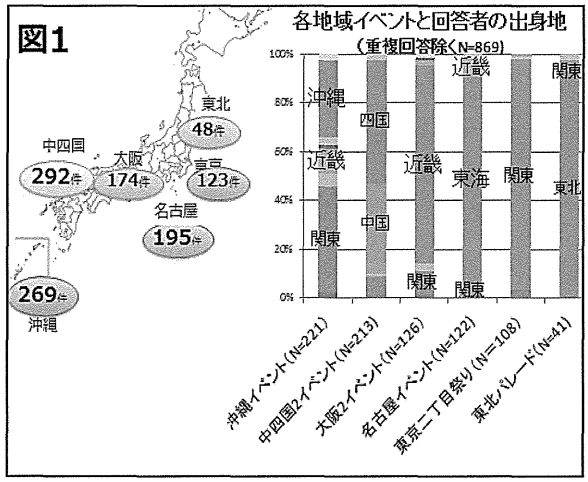
1）分析 1　重複回答を除いた分析（N=869）

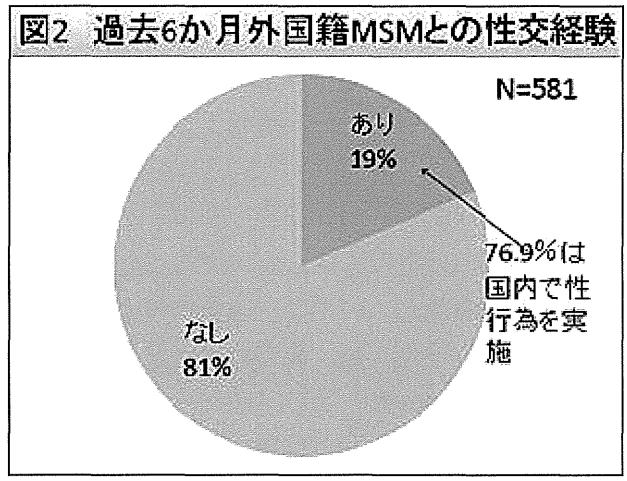
回答者のうち、重複回答を除く全国の回答者 869 名について、25 歳未満群、25 歳から 35 歳未満群、35 歳以上の 3 つの年齢別に分析を行った結果を以下に示す。なお基礎集計表は巻末表 1 に示した。

基礎属性については、性指向は、25 歳未満群は他の群と比べて「バイセクシュアル」である者の割合が 25%と高かった（表 1-1）。過去 6 か月の商業施設の利用はゲイバーはいずれの年齢層でも高く 6 割を超しており、ゲイナイトの利用は 25 歳以上の方が 25 歳未満の群よりも高く、差が見られた。どの年齢層でも過去 6 か月に恋人、彼氏、友達とエイズに関する対話をしたものの割合は半数を超えていた。（表 1-1）。

生涯に男性とアナルセックスの経験があるものの割合は 91%であった。最近の性行為でのコンドーム使用は、25 歳未満群が 66%と他の年齢群より低かった。過去 6 か月のアナルセックス時のコンドームの常用割合は、25 歳未満群で 40%、25-35 歳未満群で 44%、35 歳以上群で 50%であり、有意差はないものの、年齢が低いほど常用割合は低かった（表 1-1）

過去 6 か月に男性と性行為経験がある 581





名のうち、19%が外国籍MSMとの性行為経験を有していた(図2)。またそのうち76.9%は日本国内で性行為を行っていた。

過去6か月の性交時の併用品については、ぼっき薬（バイアグラ）などの使用が全体で8%、35歳以上では12%の使用割合であった。

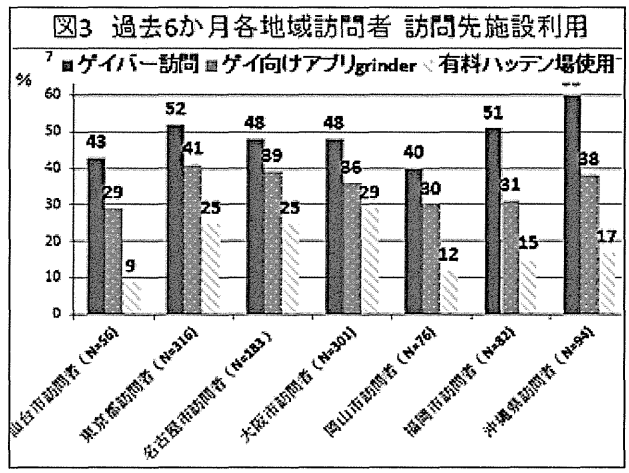
生涯でのHIV検査の受検経験は、全体では69%が経験を有しており、25歳未満群が50%と最も低かった。(表1-2)

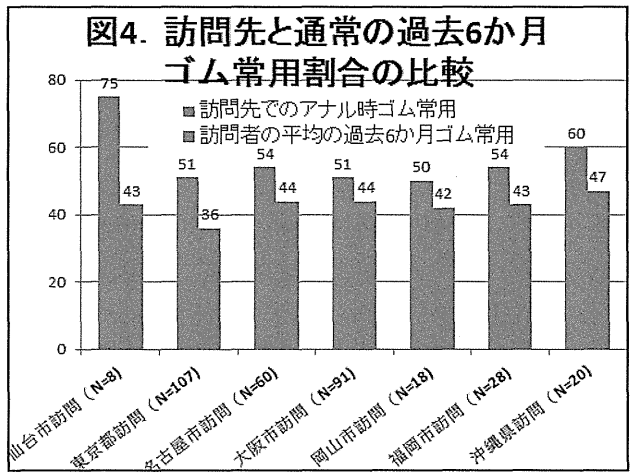
過去6か月に居住地以外の7都市(仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市、沖縄県）のうち2都市以上訪問したものは全体の36%であった。また旅行と性行動の規範についても5段階評定で尋ね、年齢との関連をみた。その結果、旅行時に旅先の人との出会いたい希望、旅行先での薬物携行希望、旅行先でのハッテン場使用の希望、旅先のゲイ向け商業施設の情報入手希望については年齢群との関連が見られ、いずれも年齢が高いものの方が同意割合が高かった。年齢との有意差は見られなかったが、旅先でのHIV検査の利用しやすさに同意したものは、全体の32%であった（表1-3)。

過去6か月に“自分の居住地以外に”旅行や出張、旅行、イベント参加等で仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市、沖縄県に移動した経験をそれぞれ尋ねた。各地域の居住者別に、に東北、東海地域の居住者の半数以上は過去6か月の東京への移動経験を有しており中国、四国地域の者の50%以上が大阪市への訪問経験を有していた。

また各地域の訪問者の訪問先での商業施設（ゲイバー、クラブイベント、ハッテン場等）利用を尋ねたところ、いずれの地域への訪問者でもゲイバーを利用しているものが最も多く、東京都訪問者では52%が、沖縄県訪問者では60%がゲイバーを使用していた(図3)。

また過去6か月に居住地以外を訪れた対象者について、過去6か月に訪問した都市別に対象者の群分けを行い、性行動・予防行動の分析を行った。その結果、訪問先によって異なるが、14-34%の者が訪問先でアナルセックスを経験していた。また訪問先でのアナルセックス時のコンドームの常用割合は50-75%であり、いずれの訪問先訪問者群においても、過去6か月の（訪問先に限定しない居住地での性行為も含む）コンドーム常用割合より高かった(図4)。





2) 分析2（リクルート地点居住者に限定）

以下は、リクルート起点となったイベント開催地域の居住者のみN=699を対象とし、地域別にコンドーム使用行動、検査行動、予防啓発の認知を年齢別に分析した。

①東北地域（N=39）

仙台市内で実施したセクシュアルマイノリティ対象のイベントでリクルートを行った。過去6か月のコンドーム常用割合は35歳以上で最も高く 35 歳以下では 10%台と低かった（図 5)。生涯で HIV 検査経験を有する者の割合は、25歳未満では36%、25-35歳群では67%、35 歳以上では 85%と年齢層が上がるほど高かった（図 6)。

②関東地域（N=105）

8 月に開催された新宿 2 丁目内のイベントで対象者リクルートを行った。過去 6 か月のコンドーム常用割合は、25 歳未満では 56%、25-35 歳未満群では 61%、35 歳以上では 41%であった(図 7)。生涯の HIV 検査受検経験は、25 歳未満が最も低く 61%であった（図 8)。

図5 最後のアナルセックス時コンドーム使用、過去6か月ゴム常用割合(N=26)

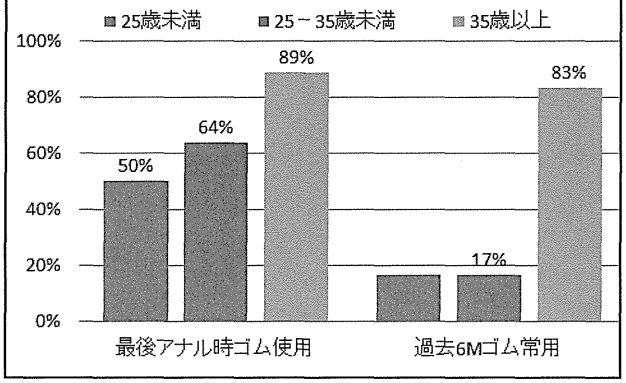


図7 最後のアナルセックス時コンドーム使用、過去6か月ゴム常用割合(N＝97)

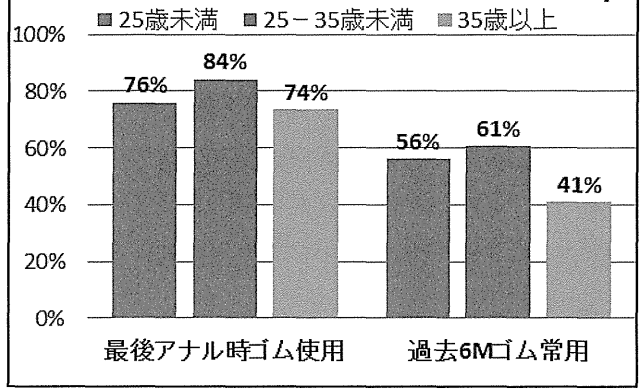


図6 生涯HIV検査経験 過去1年受検(N=39)

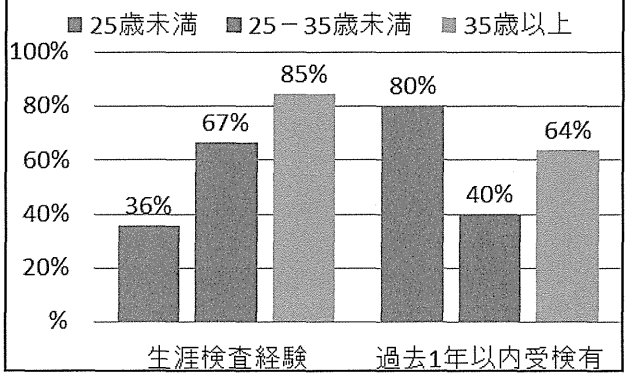
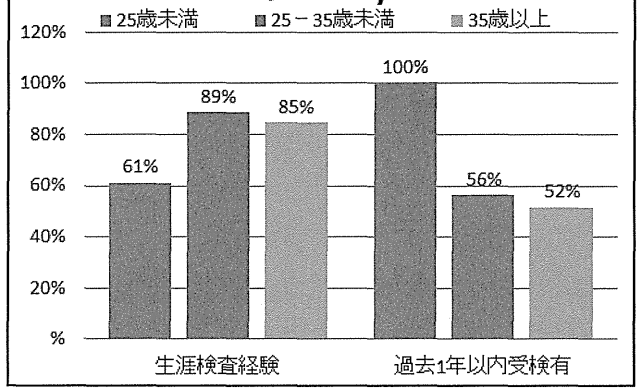


図8 生涯の検査経験と過去1年の受検(N=105)

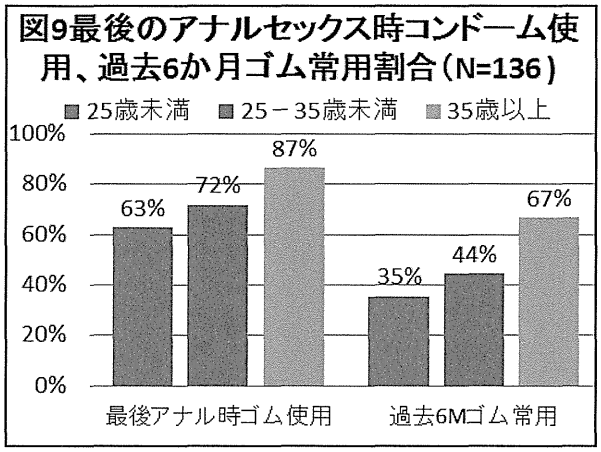


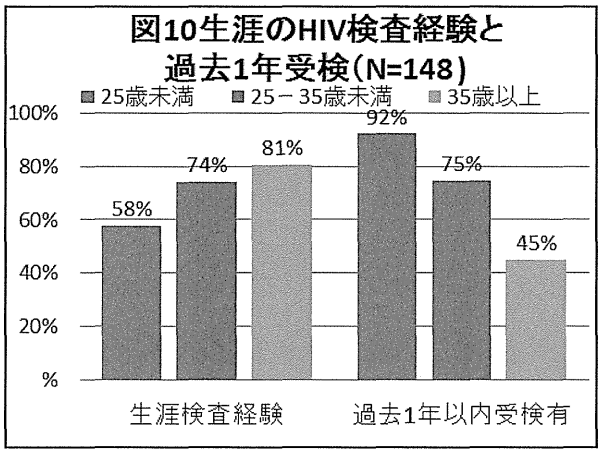
コミュニティペーパーの認知は、25 歳未満で 79%、25-35 歳未満群で 67%、35 歳以上群で 100%であった。コミュニティセンターの認知は、25 歳未満で 93%、25-35 歳未満群、35 歳以上群で 100%であった。コミュニティペーパー、コミュニティセンターの認知は全齢群で高く、京で実施しているセーファーセックスキャンペーンの認知も 35 歳以上の群では 62%と高値であった（表 2-1)。

コミュニティペーパーマンスリーakta の認知は、25 歳未満で 39%、25-35 歳未満群で 41%、35 歳以上群で 56%であった。39%－56%であり、コミュニティセンターの認知は、25 歳未満で 68%、25-35 歳未満群で 64%、35 歳以上群で 82%であった。セーファーセックスキャンペーンの認知は 25 歳未満で 45%、25-35 歳未満で 39%、35 歳以上で 44%であった（表 2-2)。

③東海地域（N=148）

8月に実施したクラブイベント、riseで実施しているプログラム参加者に対して対象者リクルートを行った。過去6か月のコンドーム常用割合は、25歳未満では35%、25-35歳未満群では44%、35歳以上では67%であった（図9）。生涯のHIV検査受検経験は25歳未満では58%、25-35歳未満群では74%、35歳以上では81%であり、年齢が高いほど高かった（図10）。

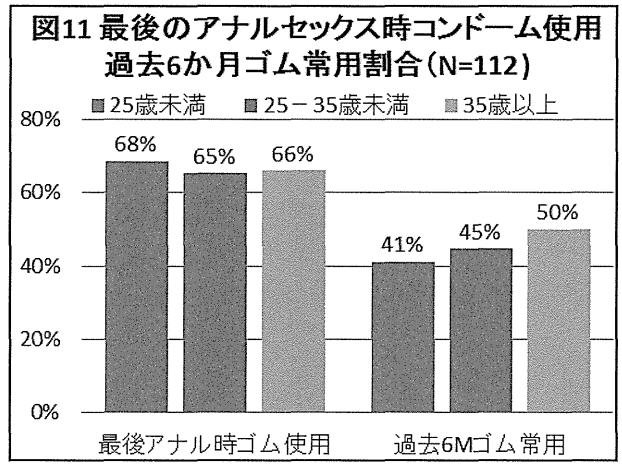


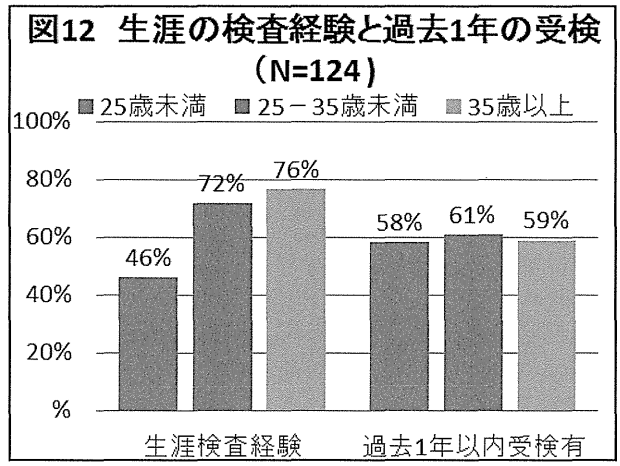


コミュニティペーパーの認知は、25歳未満で27%、25-35歳未満群で22%、35歳以上群で42%であった。コミュニティセンターの認知は25歳未満で69%、25-35歳未満群で60%、35歳以上群で72%であった。またヤるプロの認知は、18-25%で推移していた（表2-3）。

④関西地域（N=124）

大阪市内で実施したクラブイベントにて対象者のリクルートを行った。過去6か月のコンドーム常用割合は25歳未満では35%、25-35歳未満群では45%、35歳以上では50%であり、年齢層が低いほど低かった（図11）。生涯でのHIV検査受検経験は、25歳未満では46%、25-35歳未満群では72%、35歳以上では76%であり、年齢が若いほど低かった（図12）。

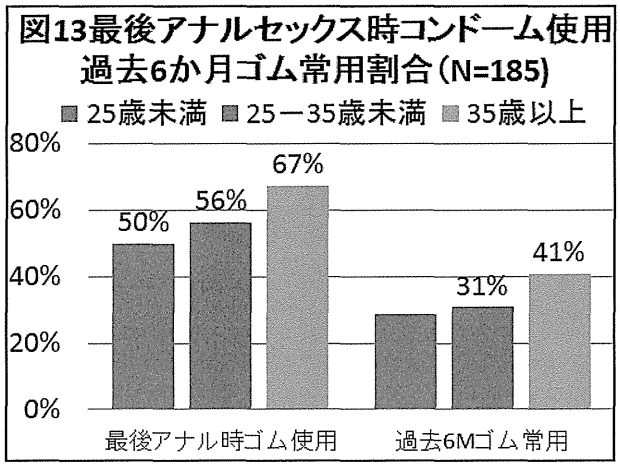


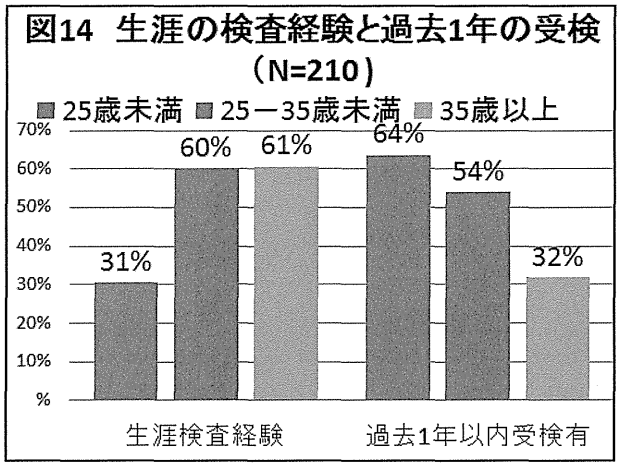


南界堂通信の認知は、25歳未満で8%、25-35歳未満群で23%、35歳以上群で22%であった。コミュニティセンターの認知は、25歳未満で46%、25-35歳未満群で69%、35歳以上群で73%であった。ヤるプロの認知は37%-62%であり、若い年齢層での認知が高かった（表2-4）。

⑤中四国地域（N=210）

広島、岡山市で実施したクラブイベントで対象者のリクルートを行った。過去6か月のコンドーム常用割合は、25歳未満では35%、25-35歳未満群では31%、35歳以上では41%であり、年齢層が低いほど低かった（図13）。生涯でのHIV検査受検経験は、25歳未満で31%、25-35歳未満群は60%、35歳以上では61%であった。25歳未満の層が最も割合が低かった。

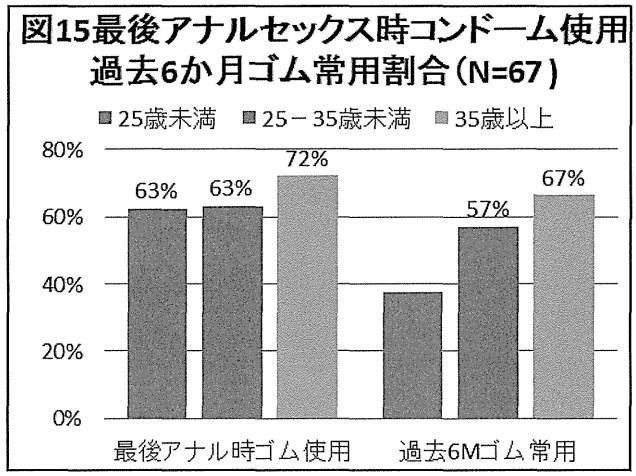


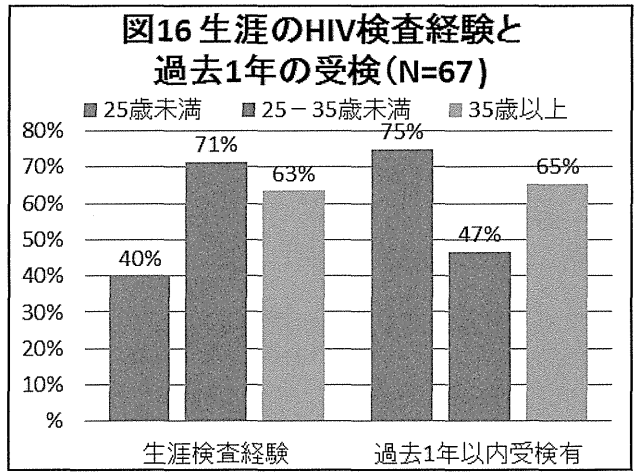


HaaT えひめが発行するコミュニティペーパーの認知は、25歳未満で25%、25-35歳未満群で53%、35歳以上群で39%であった。ヤるプロの認知は28-47%であった（表2-5）。

⑥沖縄地域（N=73）

沖縄県、那覇市で実施したクラブイベントで対象者のリクルートを行った。過去6か月のコンドーム常用割合は、38-67%であり、25歳未満が最も低かった。生涯でのHIV検査受検経験は、25歳未満で40%、25-35歳未満群は71%、35歳以上では63%であった。





nankr が発行するコミュニティペーパーの認知は、25歳未満で50%、25-35歳未満群で64%、35歳以上群で65%であった。コミュニティセンターmabui の認知は、25歳未満で80%、25-35歳未満群で83%、35歳以上群で78%であった。ヤるプロの認知は7.3-50.0%であった（表2-6）。

D. 考察

クラブイベント、ゲイコミュニティ内でのイベントに来場するMSMを対象に調査を実施し、全国から有効回答を得ることができた。各地域の検査、コンドーム使用の実態、NGO資材の認知も評価し、今後の介入のあり方を検討する資料としたい。国内移動の実態、移動先での性行動、外国籍MSMとの性行動経験についてもデータを得ることができた。

東北、関東、東海、関西、中四国、沖縄地域での主にクラブイベント参加者の予防行動やコミュニティセンター、資材の認知、国内移動と移動先での性行動についての実態評価に資するデータを得ることができたことは評価に資すると考える。特に国内移動が容易になっていること、特に都市部のゲイタウンへの海外からの来訪者が増えていることを踏まえても外国籍MSMとの性行動の実態評価に資するデータを得たことは価値が高いと考える

仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市、沖縄県への移動経験、移動先での商業施設利用、性行動についてそれぞれ尋ねたため質問項目が多く、煩雑であり、回答に時間を要したとの声も多く聞かれた。今後、国内移動経験について尋ねる際は、より回答しやすい調査項目とするなど工夫する必要がある。

E. 結論

今年度は各地域のクラブイベント等と連動しコミュニティイベントに参加するMSMの予防行動、介入への接触、国内移動と移動先での性行動を明らかにする試みを実施できた。予防行動の実態については、年齢群別にみると生涯のHIV検査受験経験、過去6か月のアナルセックス時のコンドーム常用割合が 20－29 歳群の方が 30 歳以上群より低く、若者層への介入の強化の必要性が示された。

また過去6か月に外国籍の方との性行動があるもの17%おり、外国籍の者との性交渉の機会が日本国内でもあることが示され、予防メッセージの出し方についても検討の必要性があることが示唆された。

過去6か月間と時間軸を限定しても多くのMSM が国内の居住地以外の都市への移動機会を有しており、移動先でのゲイバー使用割合が高いこと、東京都、大阪市への過去6か月移動経験者のうち3割を超えるものが移動先でアナルセックスを実施していることが示され、移動も考慮に入れた予防介入の実施、啓発の必要性が示唆された。

F. 発表論文等

1. 論文

1) Nigel Sherriff, Jane Koerner, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Michiko Takaku, Ross Boseley, Seiichi Ichikawa : Everywhere in Japan: an international approach to working with commercial gay businesses in HIV prevention, Health Promotion International, 2015 Nov doi: 10.1093/heapro/dav096

2) 金子典代：第 15 回日本エイズ学会 ECC 山口メモリアルエイズ研究奨励賞受賞研究 MSM を対象とするコミュニティベースでの HIV 感染予防活動の評価研究の推進, 日本エイズ学会誌, 17 (2), 82-86, 2015.

3) 高久道子, 市川誠一, 金子典代:愛知県に在住するスペイン語圏の南米地域出身者におけるスペイン語対応の医療機関に関する情報行動と関連する要因, 日本公衆衛生学会誌, 62(11), 684-693, 2015.

2. 学会発表（国内）

1) 木南拓也, 岩橋恒太, 荒木順子, 佐久間久弘, 大島岳, 金子典代, 本間隆之, 市川誠一：コミュニティセンターakta を基点とするアウトリーチ活動の効果評価―アウトリーチ実施店舗と未実施店舗の比較―, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京都, 2015.

2)本間隆之，岩橋恒太，木南拓也，荒木順子，佐久間久弘，大島岳，金子典代，市川誠一：コミュニティを基盤とした組織（CBO）の受け入れとコミュニティ感覚－akta を基点とするアウトリーチの評価－，第29回日本エイズ学会学術集会・総会，東京都，2015.
3)塩野徳史，後藤大輔，町登志雄，宮田りりぃ，伴仲昭彦，鬼塚哲郎，金子典代，市川誠一：近畿地域在住の MSM における初交時の予防行動に関連した要因―10年間の変化―，第29回日本エイズ学会学術集会・総会，東京都，2015.
4) 佐々木由理，市川誠一，塩野徳史，金子典代，萬田和志，全国8都道府県の保健所等と郵送 HIV 抗体検査受検者の特性について，第29回日本エイズ学会学術集会・総会，東京都，2015.
5) Seiichi Ichikawa, Satoshi Shiono, Noriyo Kaneko, Michiko Takaku, Shinichi Oka, Myagnardirj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjamts, Davaalkham Jagdasuren: Studies on NGO's HIV Prevention Activities for MSM in Mongolia，第29回日本エイズ学会学術集会・総会，東京都，2015.
6) Michiko Takaku, Seiichi Ichikawa, Satoshi Shiono, Noriyo Kaneko, Shinichi Oka, Myagnardirj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjamts, Davaalkham Jagdasuren;" We are living under the same sky "in Mongolia: Adopting Japan original project for HIV prevention "Living Together" 第29回日本エイズ学会学術集会・総会，東京都，2015.

表 1-1　対象者の属性、性行動

	25歳未満 (N=153)		25歳－35歳未満 (N= 378)		35歳以上 (N=338)		合計 (N=869)		カイ二乗検定 有意差
現在居住地　居住期間									
産まれてからずっと	57	37%	119	31%	74	22%	250	29%	.000
1年未満	23	15%	46	12%	36	11%	105	12%	
1-5年未満	49	32%	90	24%	56	17%	195	22%	
5-10年未満	7	5%	43	11%	47	14%	97	11%	
10-20年未満	10	7%	26	7%	51	15%	87	10%	
20年以上	7	5%	54	14%	74	22%	135	16%	
あなたは以下のどれにあてはまりすか？									
ゲイ	108	71%	316	84%	286	85%	710	82%	.001
バイセクシュアル	39	25%	47	12%	35	10%	121	14%	
ヘテロセクシュアル	1	1%	1	0%	2	1%	4	0%	
分からない	4	3%	6	2%	12	4%	22	3%	
決めたくない	1	1%	7	2%	1	0%	9	1%	
その他	0	0%	1	0%	2	1%	3	0%	
過去6ヵ月間の商業施設利用									
ゲイバー	100	65%	282	75%	243	72%	625	72%	0.165
ゲイナイト	43	28%	198	52%	143	42%	384	44%	0.000
ゲイショップ	35	23%	92	24%	97	29%	224	26%	0.196
PC出会い系サイト	23	15%	65	17%	66	20%	154	18%	0.271
携帯出会い系サイト	38	25%	127	34%	113	33%	278	32%	0.072
mixiなどSNS	24	16%	86	23%	95	28%	205	24%	0.291
エロ系SNS(HuGs や男子寮など)	7	5%	31	8%	33	10%	71	8%	0.580
スマートフォンゲイ向けアプリ（Grindr等)	87	57%	249	66%	193	57%	529	61%	0.553
ゲイ向けサークル	12	8%	41	11%	37	11%	90	10%	0.987
ゲイ向け合コン	3	2%	22	6%	11	3%	36	4%	0.042
ゲイの乱パ	2	1%	20	5%	17	5%	39	4%	0.140
有料のハッテン場	51	33%	136	36%	111	33%	298	34%	0.381
野外のハッテン場	6	4%	30	8%	35	10%	71	8%	0.426
ハッテン場で有名な銭湯・プールなどの施設	21	14%	68	18%	77	23%	166	19%	0.694
いずれもない	17	11%	17	4%	8	2%	42	5%	0.007
過去6ヵ月恋人・彼氏、友達とHIVエイズ対話経験									
ある	89	58%	215	57%	188	56%	492	57%	
ない	64	42%	163	43%	150	44%	377	43%	
生涯　男性とセックス(キスやフェラチオ含)経験									
ある	140	92%	366	97%	329	97%	835	96%	.005
ない	13	8%	12	3%	9	3%	34	4%	
生涯の男性とアナルセックス経験									
ある	122	80%	353	93%	312	92%	787	91%	.000
ない	31	20%	25	7%	26	8%	82	9%	
一番最近にアナルセックス時期									
現在から過去６か月の間	89	73%	256	73%	187	60%	532	68%	.000
過去６か月から過去１年の間	8	7%	42	12%	33	11%	83	11%	
一年以上前	20	16%	44	12%	86	28%	150	19%	
覚えていない	5	4%	11	3%	6	2%	22	3%	
一番最近にアナルセックスした相手									
彼氏や恋人	47	39%	106	30%	92	29%	245	31%	.077
友達やセクフレ	44	36%	133	38%	95	30%	272	35%	
その場限りの相手	29	24%	107	30%	117	38%	253	32%	
その他	2	2%	7	2%	8	3%	17	2%	
一番最近アナルセックスした時コンドーム使用									
使った	81	66%	248	70%	230	74%	559	71%	.054
使わなかった	40	33%	89	25%	76	24%	205	26%	
覚えていない	1	1%	16	5%	6	2%	23	3%	
過去6ヵ月間男性とアナルセックスをしましたか？									
はい	96	79%	278	79%	207	66%	581	74%	.001
いいえ	26	21%	75	21%	105	34%	206	26%	
過去6ヵ月間に全部で何人とアナルセックスをしました									
1人	37	39%	91	33%	76	37%	204	35%	.359
2人	19	20%	51	18%	33	16%	103	18%	
3人	19	20%	40	14%	25	12%	84	14%	
4人	3	3%	14	5%	15	7%	32	6%	
5人	3	3%	14	5%	6	3%	23	4%	
6人以上	15	16%	68	24%	52	25%	135	23%	
過去6ヵ月間のアナルセックスで、コンドームをどのく									
必ず使った	38	40%	123	44%	103	50%	264	45%	.215
使うことが多かった	29	30%	67	24%	47	23%	143	25%	
五分五分	10	10%	39	14%	14	7%	63	11%	
使わないほうが多かった	7	7%	25	9%	20	10%	52	9%	
全く使わなかった	12	13%	24	9%	23	11%	59	10%	